

● アンケートのお願い

当社では、株主の皆さまとのコミュニケーション強化を目的に、今回の事業報告書からアンケート調査を実施することにいたしました。お手数ではございますが、アンケートの質問項目をお読みいただき、ご回答をご記入のうえ、ご投函ください。皆さまのご協力をお願いいたします。

株主メモ

決算期	毎年6月30日
定時株主総会	毎年9月下旬
配当金受領 株主確定日	6月30日及び中間配当金の支払を行う場合は 12月31日といたします。
基準日	6月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
名義書換代理人	三菱信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03)5391-1900(代表)
同取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞
決算公告	http://www.donki.com/ir/

(お知らせ)

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙ご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル 0120-86-4490で24時間受け付けております。

※平成15年9月26日付にて、名義書換代理人を中央三井信託銀行株式会社より三菱信託銀行株式会社に変更いたします。



株式会社 **ドンキホーテ**

〒134-0081
東京都江戸川区北葛西4-14-1
TEL.03-5667-7511 FAX.03-5667-7522
<http://www.donki.com>

DON QUIJOTE Report 2003

第23期事業報告書

2002年7月1日～2003年6月30日

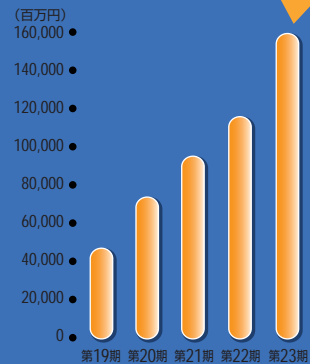
- P1 決算ハイライト
- P3 社長インタビュー
- P7 新店紹介
- P9 トピックス
- P10 店舗一覧
- P11 連結財務諸表(要約)
- P13 財務諸表の概要-単体-
- P14 会社・株式データ



13期連続で最高益を更新しました。

2003年6月期の業績は、引き続き多くのお客さまのご支持をいただいたことで、売上高、営業利益、経常利益、当期利益ともに、13期連続（単体ベース／連結ベースでは連結決算を開始した期より7期連続）で増収増益を達成することができました。また、当社が重視する経営指標、株主資本利益率（ROE）は19.2%と前期に比べ2.6ポイント上昇しました。

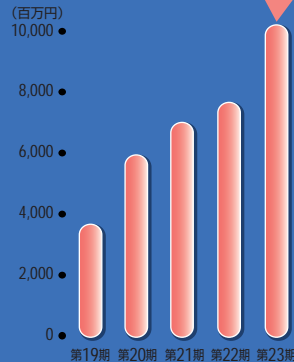
売上高



前期比
37%UP

17店の新規出店と、前期に開店した20店の年間寄与、パウ本格展開によるテナント賃料収入の大幅増により、連結売上高は前期比37.4%増の1,586億円となりました。既存店売上高については、期初には3.0%減を想定していましたが、客単価の下落が2.3%減にとどまったうえ客数が0.5%増となったことで、1.8%減にとどめることができました。

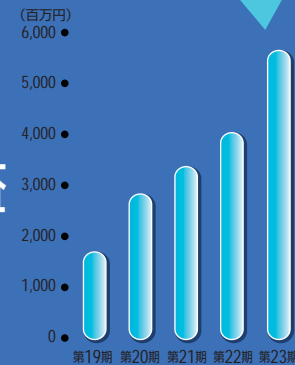
経常利益



前期比
32%UP

店舗の大型化に伴い、人件費、地代家賃、減価償却費が想定以上に上昇し、販管費率が前期比0.5ポイント増加しましたが、粗利益率の向上に取り組んだことでコスト増をほぼ吸収することができました。さらに、営業外収支戻も改善し、連結経常利益は前期比32.7%増の101億円と、100億円を突破しました。

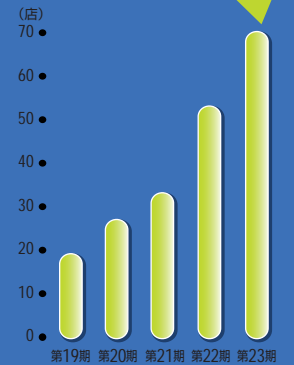
当期純利益



前期比
40%UP

特別損益では、関係会社株式売却益があったものの、投資有価証券評価損等の計上により、収支は若干のマイナスとなりました。連結当期純利益は、実効税率の低下の影響もあり前期比40.1%の56億円と大幅増になりました。

店舗数



前期比
7店増

当期は新たに17店舗を出店し、期末の店舗数は70店舗となりました。業態別の内訳は、ドン・キホーテ12店、パウ3店、ピカソ2店で、地域別に見ると、首都圏で12店、北海道で1店、大阪圏で4店の出店となり、3つの店舗フォーマットで多地域に店舗展開するという戦略に沿った出店を遂げました。

独自性を堅持しながら、着実な利益成長を目指します。



代表取締役社長 安田 隆夫

柔軟な出店体制で、効率的な店舗網拡大を図ります。

Q1.

「2×4(ツー・バイ・フォー)計画」の最終年度に入りましたが、目標達成に向けた進捗状況はいかがですか？

2001年6月期から着手した、成長のための諸施策が着実に成果をあげており、売上高2,000億円、株主資本利益率(ROE)20%はかなりの確度で達成できると考えています。また、年間出店20店体制はすでに確立できたと認識しています。経常利益200億円体制の確立については、粗利益率向上策とローコストオペレーションの取り組み強化により、早期の実現に注力していきます。

Q2.

今後の出店戦略についてお聞かせください。

「ドン・キホーテ」「パウ」「ピカソ」の3フォーマットで、出店の好機を逃がさずに展開していく方針に変わりはありません。また、出店機動性をより高めるため、「パウ」のような本格的複合商業施設とならないケースにおいても、他企業との連携による共同出店やインストアでのテナントを受け入れる出店形態にもチャレンジしています。すでに札幌の平岡店で、100円ショップを展開する(株)キャンドウを誘致(2003年7月)しています。また、他小売店の閉店跡に出店する居抜き型出店にも着手し、低コスト、短期間での出店が可能となっています。

このようにして出店手法の選択肢を広げる一方で、出店地域の広域化も引き続き進めており、2003年8月の名古屋出店で愛知県に進出したことに加え、2004年6月期には、静岡県、群馬県、茨城県、山梨県、新潟県、大分県への初出店を予定しています。なお、2004年6月期の出店計画は20店舗で、そのうち10店を「パウ」とし、一挙に「パウ」の存在感を高めていきます。

2003年8月に、ドン・キホーテ第2号店である杉並店を、賃貸借契約の満了に伴い閉鎖しました。これは当社初の店舗閉鎖で、十分な利益をあげていた店舗でしたが、老朽化が激しいことと近隣に自社店舗網を構築していることから閉鎖の判断を下しました。

Q3.

出店のほかに、現在、注力している取り組みはありますか？

常にチャレンジ精神を持ち続けることが、これまでの当社の成長を支えてきた原動力であり、現在も新たに3つの挑戦に取り組んでいます。その1つ目が、「新業態の確立」です。出店余地を拡大するため「パウ」と「ピカソ」という新しい店舗フォーマットを打ち立て

ピカソの進化 単に小型の「ドン・キホーテ」ではなく、「ピカソ」ならではの独自性を追求中で、立地環境に合わせて商品カテゴリーを絞り込むという方向で検討しているところです。



ましたが、この2つのフォーマットを揺るぎないものにするため、ノウハウの蓄積とベストなプラクティスを模索しています。「パウ」についてはかなり円滑に進みつつあり、その成果をまもなくご覧いただけると思います。「ピカソ」についてはまだまだ試行錯誤中ですが、この店舗フォーマットが切り込んでいこうとしているコンビニ市場は8兆円と極めて大きく、そこでの成功を確実に手にするために、精度の高いプロトタイプづくりを慎重に進めています。そしてフォーマットが確立した後は大量出店で攻めていきます。

2つ目は“ローコストオペレーションへの挑戦”です。これまでの、ローコストオペレーションによってお客さまの満足度が損なわれることを恐れ、積極的に取り組んでこなかった分野ですが、ローコストとお客さま満足度を両立できる基盤が整ってきたことから、コスト削減に本格的に挑戦していきます。現在、当上半期に設立した経営支援本部が、さまざまな経営資源の有効活用を徹底的に追求し、改善点を洗い出している最中です。

現状に甘んじることなく、新たなチャレンジを続けています。

3つ目は“接客力の向上”です。情熱を持って真剣にお客さまに向きあう人材を育成し、「驚き」だけでなく「感動」をも呼び起こす店づくりを進めていきます。具体的な施策としては、いつでも笑顔でお客さまに接し、店舗について何を聞かれても答えられる接客のプロ「アンサーマン」を全店舗に配置します。同時に「アンサーマン」がお手本となることで、接客レベル全体の底上げを図っていきます。

Q4.

財務的な戦略についてはどのように考えていますか？

出店拡大に必要な資金については、低金利の間接金融による調達を基本としながら、調達手段の多様化を進めています。その1つが不動産の流動化です。当期に行った「パウかわさき」での流動化を含め、これまでに3店舗で流動化を実施しており、今後も戦略的に進めていく計画です。不動産の流動化には資産の過剰な膨張を回避し、経営リスクを低減するという狙いもあります。また、エクイティ・ファイナンスも資金調達の選択肢として考えています。

Q5.

最後に株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

先に述べたように、挑戦を通じて自己革新を続けることが当社の成長の原動力ですが、一方で変えるべきでないものも存在します。それは「お客さま第一主義」という当社の企業原理です。この普遍的なテーマを発展させ、お客さまはもとより株主の皆さまに満足していただける企業となることが、当社の目指す姿です。その一環として、2003年8月20日付で普通株式1株を2株に分割しました。また、量の拡大だけでなく質も向上させ、企業価値の向上と株主価値の最大化にも引き続き挑戦していきます。



新店紹介
(当下半年)

パウを新たに2店 オープンしました。



★パウひらつか

2003年3月25日、神奈川県平塚市に、アミューズメントモール「パウ」の3号店目となる「パウひらつか」がオープンしました。ドン・キホーテをコアテナントに、「パウ」初出店の大型アミューズメントゲーム機施設「楽市楽座」、食品スーパー、リサイクル書店、各種飲食店、エステサロンなど、15店舗が出店。また他の「パウ」同様、お笑いのライブショーやフリーマーケットなどイベントも積極的に開催しており、地域の皆さまに楽しんでいただける施設を目指しています。



動物病院併設のペットショップ ペットショップの「ワンにゃん村」には24時まで診察可能なペットクリニックが併設されており、仕事の後でもご利用いただけます。



新しいアミューズメント施設 ドン・キホーテはゲームセンター九州最大手の(株)ワイドレジャーが開発した複合型のアミューズメント商業施設に2店出店していますが、パウひらつかでは逆にワイドレジャーの「楽市楽座」が当社の施設に出店。異業種とのパートナーシップが新しい実を結びました。

★パウかしわ



充実の飲食店街 本場の味が堪能できる韓国家庭料理店「あぶり屋」、韓国ファーストフード「あっちっち」、飲茶と点心の「香港厨房」など、本格的かつリーズナブルな飲食店が7店出店しています。



異空間出現 ジャングルでの宝探しが内装デザインのコンセプトになっている店内を探索していると、突如姿を現すのが香港九龍城をモチーフにした「セガワールド」。セガならではのアレンジを加えたアミューズメント施設になっています。

「パウ」4号店目の「パウかしわ」は、2003年4月22日、千葉県柏市にオープン。ドン・キホーテや「パウ」3店で出店経験のある店舗に加え、新たに個性豊かなお店が出店。活気あふれる全18店で、地域に新たなアミューズメントスポットをつくっていきます。



下半期で9店をオープン。 順調な店舗網拡大を続けています。

下半期にはここで紹介したパウ2店のほか、ドン・キホーテ6店、ピカソ1店をオープン。栃木県初出店となる宇都宮店、京都府初出店となる京都南インター店など、出店エリアを確実に広げ、10都道府県にわたる店舗網を築きました。通期では17店の出店で、期末時点での総店舗数は70店となりました。



トピックス



アコムと提携し、
パウカードを発行

ドン・キホーテグループの(株)パウ・クリエーションはアコム(株)と提携し、「パウマスターカード」を2003年3月25日より導入しました。入会金・年会費無料で、クレジットカード機能・キャッシング機能のほか、パウ各施設のパウカード参加パートナーで提示すると、割引サービスや飲食サービスが受けられます。また、カード会員の特典として「Class A」サービス(「Class A」マークが表示されている日本全国のレストラン、レジャー施設やホテル等での割引特典)も受けられます。

オリジナルギフトカードの
販売を開始

当社は、三井住友カード(株)と提携し、2003年4月21日よりドン・キホーテ及びピカソ全店で利用可能なオリジナルギフトカード「ドン・キホーテギフトカード」の販売を開始しました。ディスカウントストアでの使用を前提としたギフトカードは、同額面の汎用ギフトカードよりも実質的な価値を持った満足度の高い贈答品として用いられることにより、新規顧客の獲得への効果が見込めます。



パウきたいけぶくろに
「情報“感”」オープン

2003年6月13日、「パウきたいけぶくろ」に、さまざまなチラシ・パンフレットを集めた情報ブース「情報“感”」をオープンしました。3カ月ごとに特定のテーマを設けて情報を提供するスペースで、オープン時は「美」をテーマに、エステやダイエット、脱毛などに関するパンフレット、クーポン、試供品などの提供のほか、新製品体験コーナーを設置。お客さまには物販、飲食、サービスに加え情報という価値をご提供するとともに、パウの集客力を広告価値に転じて収益増加を図っていきます。

店舗一覧

(2003年6月30日現在)
★…当期出店

ドン・キホーテ

57店

ピカソ

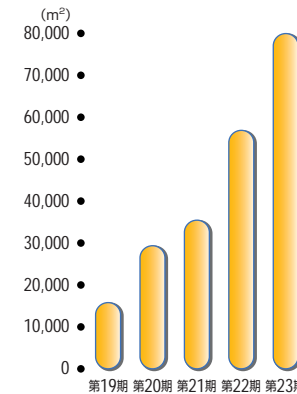
9店

パウ

4店



売場面積推移



北海道

札幌店	札幌市中央区南二条西3-6
手稲店	札幌市手稲区前田五条11-7-10
平岡店	札幌市清田区平岡四条1-1-35
★旭川店	旭川市永山三条4-1-3

栃木県

★宇都宮店	宇都宮市築瀬町字一丁田1590-6
-------	-------------------

東京都

府中店	府中市緑町2-6-3
杉並店	杉並区宮前4-22-13
新宿店	新宿区大久保1-12-6
葛西店	江戸川区北葛西4-14-1
環八世田谷店	世田谷区八幡山3-39
環七梅島店	足立区中央本町5-5-14
京浜蒲田店	大田区仲六郷3-29
京王堀之内店	八王子市松木34-11
東八三鷹店	三鷹市野崎1-24
小金井公園店	西東京市新町5-3-12
渋谷店	渋谷区道玄坂2-25-8
めじろ台店	八王子市桐田町586-22
環七方南町店	杉並区方南1-28-3
新宿東口本店	新宿区歌舞伎町1-16-5
小平店	小平市小川東町1-5-23
六本木店	港区六本木3-14-10
青戸店	葛飾区青戸3-1-1
★BIG FUN平和島店	大田区平和島1-1-1
★中野駅前店	中野区中野5-68-5
★町田駅前店	町田市原町田4-2-3
★亀戸店	江東区亀戸1-40-2
★パウきたいけぶくろ店	豊島区池袋本町2-7-5
ピカソ新小岩店	葛飾区新小岩1-30-2
ピカソ国分寺店	国分寺市本町2-2-8
★ピカソ池袋東口店	豊島区東池袋1-2-9
★ピカソ三軒茶屋店	世田谷区三軒茶屋2-12-12

神奈川県

東名川崎店	川崎市宮前区馬絹1645
新横浜店	横浜市港北区菊名7-9-25
港山下店	横浜市中区新山下1-2-8
東名相模原店	相模原市上鶴岡985-1
横須賀店	横須賀市大津町1-22-7
東名横浜インター店	横浜市緑区霧が丘5-1-8
戸塚原宿店	横浜市戸塚区原宿4-5-11

★厚木店	厚木市妻田南2-8-12
パウかわさき店	川崎市幸区神明町1-44-1
★パウひらつか店	平塚市田村5535-1
ピカソ伊勢佐木町店	横浜市中区曙町1-5
ピカソ鶴見駅前店	横浜市鶴見区豊岡町7-12

埼玉県

大宮店	さいたま市北区東大成町2-685
和光店	和光市白子3-11-85
浦和花月店	さいたま市緑区大字中尾字不動谷260-1
大宮大和田店	さいたま市貝沼区大和田町1-219-6
川口新井宿店	川口市西新井宿南原81-1
蕨店	蕨市錦町1-11-11
★新座野火止店	新座市野火止4-1-77
ピカソ上尾店	上尾市仲町1-7-23

千葉県

木更津店	木更津市請西2-2-1
幕張店	千葉市花見川区幕張町5-391-6
市原店	市原市八幡217
原西船橋店	船橋市本郷町474-1
千葉中央店	千葉市中央区祐光3-10-6
★パウかしわ店	柏市富里3-3-2
ピカソ本八幡店	市川市南八幡4-7-2

京都府

★京都南インター店	京都市南区上鳥羽北花名町1-2
-----------	-----------------

大阪府

箕面店	箕面市牧落4-1-30
枚方店	枚方市池之宮2-30-10
★狭山店	大阪狭山市東茶葉木2-950-2
★内環深江店	大阪市東成区深江北1-13
ピカソなんば店	大阪市中央区難波3-8-22

兵庫県

伊丹店	伊丹市大鹿7-62-1
姫路南店	姫路市飾磨区構2-51
★三宮店	神戸市中央区下山手通2-12-3

福岡県

楽市街道箱崎店	福岡市東区箱崎5-1-8
西新店	福岡市早良区西新3-4-2
楽市楽座久留米店	久留米市東台川2-2-1

計70店

※2003年8月24日をもって杉並店を閉店しています。

連結財務諸表(要約)

連結損益計算書

(単位:百万円)

	当期		前期	
	自平成14年7月1日 至平成15年6月30日	自平成13年7月1日 至平成14年6月30日	自平成14年7月1日 至平成15年6月30日	自平成13年7月1日 至平成14年6月30日
売上高	158,619	115,428		
売上原価	122,307	89,388		
売上総利益	36,311	26,040		
販売費及び一般管理費	27,145	19,123		
営業利益	9,165	6,916		
営業外収益	1,624	1,236		
営業外費用	628	497		
経常利益	10,162	7,656		
特別利益	149	28		
特別損失	215	534		
税金等調整前当期純利益	10,095	7,150		
法人税、住民税及び事業税	5,003	3,608		
法人税等調整額	△ 549	△ 485		
当期純利益	5,641	4,027		

連結剰余金計算書

(単位:百万円)

	当期		前期	
	自平成14年7月1日 至平成15年6月30日	自平成13年7月1日 至平成14年6月30日	自平成14年7月1日 至平成15年6月30日	自平成13年7月1日 至平成14年6月30日
(資本剰余金の部)				
資本剰余金期首残高	7,130	6,854		
資本剰余金増加高	134	275		
資本剰余金期首残高	7,265	7,130		
(利益剰余金の部)				
利益剰余金期首残高	13,658	9,693		
利益剰余金増加高	5,641	4,027		
当期純利益	5,641	4,027		
利益剰余金減少高	151	62		
配当金	151	50		
合併に伴う利益剰余金減少高	—	12		
利益剰余金期末残高	19,148	13,658		

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当期		前期	
	自平成14年7月1日 至平成15年6月30日	自平成13年7月1日 至平成14年6月30日	自平成14年7月1日 至平成15年6月30日	自平成13年7月1日 至平成14年6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,052	4,972		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 13,080	△ 17,667		
財務活動によるキャッシュ・フロー	11,838	15,614		
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—		
現金及び現金同等物の増加額	810	2,919		
現金及び現金同等物の期首残高	6,230	3,249		
合併による現金及び現金同等物の受入	—	61		
現金及び現金同等物の 期末残高	7,040	6,230		

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

2. 連結財務諸表規則の改正により、連結剰余金計算書及び貸借対照表の資本の部(P12)の記載方法が変更されました。そのため前期の計数を組み替えて表示しています。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当期末		前期末	
	平成15年6月30日現在	平成14年6月30日現在	平成15年6月30日現在	平成14年6月30日現在
資産の部				
流動資産	37,576	27,143		
現金及び預金	7,040	6,250		
売掛金	1,140	991		
棚卸資産	26,856	17,988		
その他	2,539	1,913		
固定資産	55,834	45,342		
有形固定資産	40,675	33,203		
無形固定資産	1,231	1,097		
投資その他の資産	13,927	11,041		
資産合計	93,410	72,485		

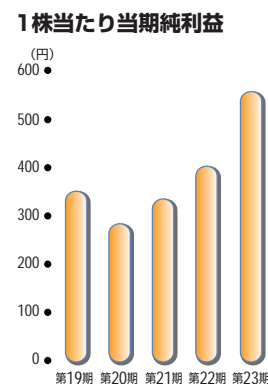
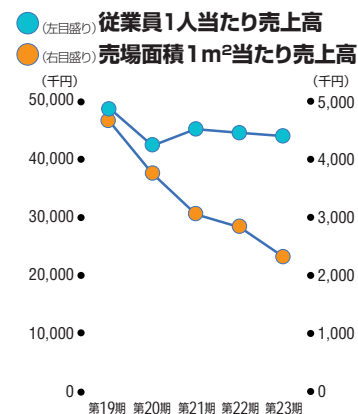
(単位:百万円)

	当期末		前期末	
	平成15年6月30日現在	平成14年6月30日現在	平成15年6月30日現在	平成14年6月30日現在
負債の部				
流動負債	33,295	28,340		
買掛金	16,470	14,240		
短期借入金 ^(1年内返済予定 長期借入金含む)	10,202	9,090		
1年内償還予定社債	600	—		
その他	6,022	5,009		
固定負債	27,882	17,583		
社債	9,100	—		
転換社債	7,278	7,488		
長期借入金	10,794	9,671		
その他	710	423		
負債合計	61,178	45,923		

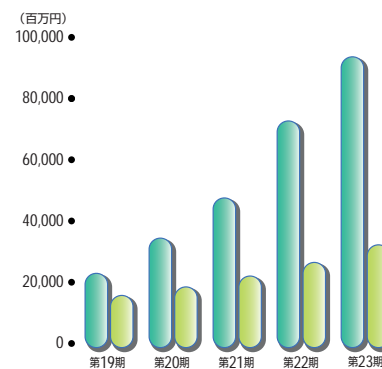
資本の部

資本金	5,949	5,815
資本剰余金	7,265	7,130
利益剰余金	19,148	13,658
その他有価証券評価差額金	△ 123	△ 38
自己株式	△ 7	△ 3
資本合計	32,232	26,562
負債・少数株主持分及び資本合計	93,410	72,485

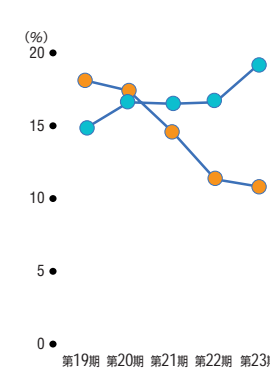
(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。



● 総資産
● 株主資本



● 株主資本利益率(ROE)
● 総資本経常利益率(ROA)



損益計算書(要約)

(単位:百万円)

	当期	前期
	自平成14年7月1日 至平成15年6月30日	自平成13年7月1日 至平成14年6月30日
売上高	158,043	114,816
売上原価	121,779	89,005
売上総利益	36,263	25,811
販売費及び一般管理費	27,109	18,886
営業利益	9,154	6,924
営業外収益	1,566	1,222
営業外費用	624	495
経常利益	10,096	7,652
特別利益	147	27
特別損失	215	534
税引前当期純利益	10,027	7,144
法人税、住民税及び事業税	4,954	3,604
法人税等調整額	△ 548	△ 488
当期純利益	5,621	4,028
前期繰越利益	1,514	1,149
合併による未処理損失受入額	—	△ 12
当期末処分利益	7,135	5,162

利益処分

(単位:百万円)

	当期末	前期末
	平成15年6月30日現在	平成14年6月30日現在
当期末処分利益	7,135	5,165
配当金	152	151
別途積立金	5,000	3,500
次期繰越利益	1,983	1,514

貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

	当期末	前期末
	平成15年6月30日現在	平成14年6月30日現在
資産の部		
流動資産	37,248	26,659
現金及び預金	6,768	5,994
売掛金	1,074	907
棚卸資産	26,856	17,835
その他	2,549	1,922
固定資産	55,576	45,384
有形固定資産	40,518	33,180
無形固定資産	1,225	1,091
投資その他の資産	13,832	11,113
資産合計	92,825	72,043

負債の部

流動負債	32,996	28,039
買掛金	16,470	14,178
短期借入金 (1年内返済予定 長期借入金含む)	10,202	8,960
1年内償還予定社債	600	—
その他	5,724	4,901
固定負債	27,686	17,511
社債	9,100	—
転換社債	7,278	7,488
長期借入金	10,794	9,671
その他	513	351
負債合計	60,683	45,551

資本の部

資本金	5,949	5,815
資本剰余金	7,265	7,130
利益剰余金	19,058	13,588
利益準備金	22	22
任意積立金	11,900	8,400
当期末処分利益	7,135	5,165
その他有価証券評価差額金	△ 123	△ 38
自己株式	△ 7	△ 3
資本合計	32,142	26,492
負債及び資本合計	92,825	72,043

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。
2. 財務諸表規則の改正により、貸借対照表の資本の部の記載方法が変更されました。そのため前期の計数を組み替えて表示しています。

会社・
株式データ

会社の概況 (2003年6月30日現在)

商号	株式会社 ドン・キホーテ (英文名: Don Quijote Co., Ltd.)
事業内容	家電製品、日用雑貨品、食品、時計・ファッション用品及びスポーツ・レジャー用品等の販売を行うビッグコンビニエンス&ディスカウント・ストア
本社所在地	〒134-0081 東京都江戸川区北葛西4-14-1 TEL.03-5667-7511 FAX.03-5667-7522
設立年月日	1980年9月5日
資本金	59億4,987万円
従業員数	1,113名

役員 (2003年9月25日現在)

代表取締役社長	安田 隆夫	常勤監査役	松浦 功
取締役	高橋 光夫	監査役	高橋 睦男
取締役	成沢 潤治	監査役	江原 均
取締役	大原 孝治	監査役	上野 勝
取締役	上田 哲		
取締役	久保田 清		
取締役	房 広治		

(注) 1. 取締役 房 広治氏は、商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役です。
2. 監査役の4氏は、商法特例法第18条第1項に定める社外監査役です。

株式の状況 (2003年6月30日現在)

会社が発行する株式の総数	39,000,000株
発行済株式の総数	10,140,122株
自己株式の総数	698株
株主総数	4,282名 (注)前期末に比較して419名増加しています。

大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
安田 隆夫	1,872,000	18.47
ラ マンチャ	1,500,000	14.80
日本マスタートラスト信託銀行株式会社※	743,200	7.33
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社※	719,400	7.10
有限会社安隆商事	690,000	6.81
UFJ信託銀行株式会社※	426,200	4.20
ユービーエス エージー ホンコン	415,000	4.09
野村證券株式会社	173,500	1.71
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン	130,000	1.28
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	113,780	1.12

(注) ※の持株数には、信託業務に係る株式数が含まれています。